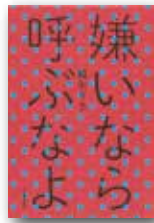


あたらしくはいった本 (令和4年8月 貸出開始資料から)

- 小説 ウクライナにいたら戦争が始まった(松岡圭祐/著) 嫌いなら呼ぶなよ(綿矢りさ/著) 愛という名の切り札(谷川直子/著) よって件のごとし(宮部みゆき/著) その本は(又吉直樹、ヨシタケシンスケ/著) きときと夫婦旅(椰月美智子/著) 見習医ワトソンの追究(鍋木蓮/著) 空を駆ける(梶よう子/著) クローゼットファイル(川瀬七緒/著) きらめきを落としても(鯨井あめ/著) 愚か者同盟(ジョン・ケネディ・トゥール/著)
- 随筆・詩などの文学 オーライウトーリひなた猫(青木奈緒/著) まるまる徹夜で読み通す(井上ひさし/著) 松本清張推理評論集(松本清張/著) 娘に語るお父さんの戦記(水木しげる/著)
- その他の本 また、いつか。(内野順子/著) 発酵パワーで元気になるみそレシピ(大瀬由生子/著) あなたのなつかしい一冊(池澤夏樹/編) 40代からシニアまで睡眠の悩み(三島和夫/監修) ひとかけらの木片が教えてくれること(田鶴寿弥子/著)



『ウクライナにいたら戦争が始まった』
松岡圭祐
KADOKAWA



『嫌いなら呼ぶなよ』
綿矢りさ
河出書房新社



『愚か者同盟』
ジョン・ケネディ・トゥール
国書刊行会

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館の際はマスク着用などの協力をお願いします。

みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646

FAX (921) 4896

<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

としょかんカレンダー

令和4年	日	月	火	水	木	金	土
10							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23/30	24/31	25	26	27	28	29

○印の日は、お休みです。

開館時間 午前10時から午後6時まで

金曜・土曜(祝日除く・天字の日)は午後7時まで

太宰府天満宮の御輿修造

毎年9月21〜25日に行われる太宰府天満宮の神幸式大祭では、道真公の御神霊が御輿(御神輿)に乗り、かつて住まいのあった榎社に御神幸します。現在の御輿は明治になって造られたものですが、それより遙かにさかのぼった戦国時代中頃の天文8(1539)年に、天満宮社家の満盛院が御輿を修造した史料が残っています。



同5(1536)年に、筑前国守護の大内義隆は満盛院に対して、期限を決めて御輿の修造を仕上げるよう命じていました。ところが、その旨を書いて渡した奉書を、義隆は3年後になって満盛院に進上するよう指示し(3年前に出した命令の内容を確認するため)、また修造に必要な費用を御輿奉行と相談して上申せよとも言っているのです。作業は3年経ってもまだ完成していません。

図面を大内氏に提出しました。それには御輿の装飾金具の足りない分が記されていて、加えて近年に快間がいくつか金具を付け足した分が書き込まれていたそうです。快間は費用については、この図を見て判断していただきたいと主張しています。また、先代快竹の時には費用が支払われなかったけれども、苦勞して修造を果たした話を引き合いに出しつつ、残りの金具ほか装飾などを油断なく用意していると伝えていきます。続いて、10年ほど後の同17(1548)年から19(1550)年の間にも、満盛院は御輿の修造をしています。この時は出来上がりが遅れたため、大内義隆は罰として廻廊一間分の屋根の上葺を課しています。このように天満宮の御輿の修造をめぐる、大内氏と満盛院の駆け引きの様子をうかがうことができます。

【バックナンバーはこちら】

ページID 7241

太宰府市公文書館

大塚 俊司

これに対し満盛院の院主快間は、指示通り大内氏から渡された奉書を差し出しましたが、費用について上申する件は「その必要はありません」と断っています。一方で快間は、先代の快竹が御輿を復興した時の